東京都障害者ピアサポート研修　専門研修　概要

第５回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認（p.2）
- 専門研修の検討に当たっての留意事項（p.3）
- 専門研修の全体カリキュラムの確認（p.4～p.7）
- ファシリテーター向け　グループワークをファシリテートする上での留意事項（p.8）
- 研修実施に当たってのファシリテーターへの事前の配慮について（p.9）
- **演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討**（p.10～p.15）
- **事業所向け研修「６　ピアサポートを活用する技術と仕組み」**（p.16～p.20）
- **事業所向け研修「９　ピアサポーターを活かす雇用」**（p.21～p.27）
- **第４回委員会終了後アンケート結果について**（別紙参考資料有）

東京都障害者ピアサポート研修　専門研修　概要

スケジュール

※あくまでも現時点での予定となります。

R３年度	8月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月
カリキュラム検討	第１回		第２回	第３回	第４回		第５回	第６回
主な検討項目	・養成するピアサポーター像 ・検討課題整理		・基礎研修講義内容検討 ・基礎研修演習の検討課題整理	・基礎研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討	・専門研修講義内容検討 ・専門研修演習の検討課題整理		・専門研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討	・専門研修演習ワークショップ用資料検討 ・次年度引継事項整理

R４年度	5月	6月	7月	8月	9月	１０月	１１月	1月	2月
研修実施		基礎研修 ２回 計４日間			専門研修 ２回 計４日間			フォローアップ研修 ２回 計４日間	
カリキュラム検討	第１回		基礎研修振り返り(方法は検討中)			第２回	第３回		第４回
主な検討項目	・前年度の振り返り ・講師の決定 ・フォローアップ研修演習の検討課題整理					・基礎研修、専門研修の反省を踏まえた検討課題再整理 ・フォローアップ研修教材検討、ワークショップ用資料作成	・フォローアップ研修ワークショップ用資料作成 ・講師の決定		・フォローアップの反省点の振返りと年間まとめの回

東京都障害者ピアサポート研修　専門研修　概要

第4回資料再掲

専門研修検討に当たっての留意事項

- 第１回でのご説明のとおり、東京都の専門研修は、**障害領域別ではなく共通内容で**の実施を想定している。障害領域を超えた意見交換や相互理解の充実も狙っている。
- 各障害領域の当事者が一緒に研修を受講することになるため、**各障害領域の当事者に配慮した研修とする**。それぞれの専門領域で培ってきた、いいところを持ってきて、組み立てていきたい。
- **各障害領域に共通して伝わりやすいかという視点で、必要に応じて表現の工夫が必要。**

➢ 国テキストを使用しつつも、専門用語・カタカナ語については、各障害領域に共通して伝わりやすい補足説明を付ける。

（例①）「セルフマネジメントとバウンダリー」という項目名⇒「ピアサポーターが葛藤しやすい状況」と副題で補足を付ける　等

（例②）「リカバリー」⇒「障害にとらわれずにありのままの自分らしく生きる」（リカバリー）　等

※各障害分野の歴史的背景や理念などが深く関係している用語について、全て置き換えるのは適切ではない。あくまで、用語は残しつつ、説明を追加する。

東京都障害者ピアサポート研修　専門研修　概要

専門研修カリキュラム　１日目①

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト該当頁
オリエンテーション	●研修の全体像・専門研修のねらい ●グループワークのグランドルール	研修事務局	10時20分～10時30分(10分)	
1　基礎研修の振り返り	●基礎研修の振り返り	・1人（岩崎委員長）	10時30分～11時00分(30分)	p.3～p.4
2　ピアサポーターの基礎と専門性	●障害特性に応じた専門性	・当事者1人（小阪委員）	11時00分～11時40分(40分)	p.5～p.10
（15分休憩）				
3　演習①	●講義2の振り返り、気付きの共有 ・（例）「リカバリーストーリーを書いてみましょう」、「各々のリカバリーストーリーを聴いてみましょう」	・当事者5人（検討委員会委員等） ・専門職5人（検討委員会委員等） 計10人（5グループ） ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、小阪委員	11時55分～12時55分(60分)	p.10
（60分昼休憩）				
4　ピアサポートの専門性の活用	●障害特性に応じたピアサポートの専門性を活かすための視点	・当事者1人（秋山委員）	14時00分～14時40分(40分)	p.11～p.17
5　演習②	●講義4の振り返り、気付きの共有 ・事例の検討	・当事者5人（検討委員会委員等） ・専門職5人（検討委員会委員等） 計10人（5グループ） ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、秋山委員	14時20分～14時50分(30分)	p.16
（15分休憩）				

（次のページに続きます。）

東京都障害者ピアサポート研修　専門研修　概要

専門研修カリキュラム　１日目②

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト該当頁
6 【障害者】 関連する保健 医療福祉施策の 仕組みと業務の実際	●関連法、関連施策	・専門職１人（検討委員会委員等）	14時50分～15時30分 (40分)	p.18～p.25
6 【事業所】 ピアサポートを活用する技術と仕組み	●現場におけるピアサポートの活用方法	・専門職１人（検討委員会委員等）		p.26～32
（15分昼休憩）				
7 【障害者】演習③	●講義6の振り返り、気付きの共有 ・（例）「『自分だったらこの機関（事業所）で働いてみたい』というところはありますか」、「自分自身が利用したことがなかったり。あまり知らないサービスについて詳しく知るにはどうしたら良いでしょうか。情報を共有してみましょう」	・当事者、専門職 （検討委員会委員等）　計６人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・講義統括は、検討委員会委員等	15時45分～16時25分 (40分)	p.25
7 【事業所】演習③	●演習6の振り返り、気付きの共有 ・（例）「労働法令や倫理規定を正しく理解していましたか」、「雇用する側として困ったことはありましたか。あるとすれば、どのように解決していけると思いますか」	・当事者、専門職 （検討委員会委員等）　計４人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師 *回により変動		p.32
8　演習④	●障害者、事業所職員別講義及び演習内容についての共有	・当事者５人（検討委員会委員等） ・専門職５人（検討委員会委員等） 計１０人（5グループ） ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、講義講師	16時25分～16時45分 (20分)	

東京都障害者ピアサポート研修　専門研修　概要

専門研修カリキュラム　２日目①

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト該当頁
９【障害者】 ピアサポーターとしての働き方	●労働法規	・１人（検討委員会委員等）	10時30分～11時00分 (30分) ※障害者と事業所で別教室で実施	p.26～32
９【事業所】 ピアサポーターを活かす雇用	●ピアサポーターを雇用し、協働する上での留意点 国要綱のとおりだが、「ピアサポーターを活かす」のままで良いか	・１人（検討委員会委員等）		p.42～p.55
１０【障害者】 演習⑤	●講義９の振り返り、気付きの共有 ・（例）「労働法令や倫理規定を正しく理解していましたか」、「雇用される側として困ったことはありましたか。あるとすれば、どのように解決していけると思いますか」	・当事者、専門職 （検討委員会委員等）　計６人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師	11時00分～ 11時40分 (40分)	p.32
１０【事業所】 演習⑤	●講義９の振り返り、気付きの共有 ・（例）「『ピアサポーターがいることで、利用者に対する愚痴を言いにくくなったと専門職がこぼしている』、『ピアサポーターがなかなか自分の意見を言わない』、『ピアサポーターと他の職員で意見が衝突した』、『ピアサポーターが職場を休みがちになっている』といった場合にどう対処しますか」、「ピアサポーターと働く上での期待/不安はどのようなことですか」	・当事者、専門職 （検討委員会委員等）　計４人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師 *回により変動		p.47、p.55
（60分昼休憩）				

（次のページに続きます。）

東京都障害者ピアサポート研修　専門研修　概要

専門研修カリキュラム　２日目②

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト該当頁
11　セルフマネジメントとバウンダリー 副題（仮）：ピアサポーターが葛藤しやすい状況	●ピアサポーターが葛藤しやすい状況 ●病気や障害を抱えて働く上でのセルフケア	・当事者1人（小阪委員）	12時40分～ 13時10分 (30分)	p.33～p.37
12　演習⑥	●講義11の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターが自分の病気や薬を理解するためにしている方法は何でしょうか」、「あの時バウンダリーを意識していれば良かったと振り返ることはありますか」	・当事者5人（検討委員会委員等） ・専門職5人（検討委員会委員等） 計10人（5グループ） ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、小阪委員	13時10分～ 13時50分 (40分)	p.37
（15分休憩）				
13　チームアプローチ	●所属機関（チーム）におけるピアサポーターの役割と協働における留意点	・当事者1人（検討委員会委員等） ・専門職1人（検討委員会委員等） 計2人	14時05分～ 14時45分 (40分)	p.38～p.41
（15分昼休憩）				
14　演習⑦	●講義13の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターが協働するチームの構成員について考えてみましょう」、「チームにおけるピアサポーターの役割について考えてみましょう」	・当事者5人（検討委員会委員等） ・専門職5人（検討委員会委員等） 計10人（5グループ） ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、講義講師	15時00分～ 16時00分 (60分)	p.41

東京都障害者ピアサポート研修　演習概要

第3回資料(修正版)

（本スライドの内容は、研修実施に当たり、事前に事務局よりファシリテーターを担っていただく方に共有することを想定しています）

【ファシリテーターの方へ】 グループワークをファシリテートする上での留意事項

- 参加者の中には「グループワークがはじめて」という方もいます。アイスブレイクを行うなどして、場の雰囲気を温めましょう。
- 参加者から意見を引き出す立場であることを意識し、ファシリテーターが話しすぎないようにしましょう。
- 参加者同士の意見の対立があった際には、どちらも否定せず、柔軟に対応しましょう。
- 遠慮がちな方がいたら、意識的に声掛けをし、参加者が均等に話ができるよう配慮しましょう。

  各演習で、最低１回ずつ、参加者の方が発言できることが理想です。

  もし、１人の方が話し続けてしまう場合は、時間で区切って、次の方に話を譲っていただくなどの柔軟な対応も必要です。

東京都障害者ピアサポート研修　演習概要

第3回資料(修正版)

研修実施に当たってのファシリテーターへの事前の配慮について

配慮が必要なこと

ファシリテーターも緊張する！

ファシリテーターの緊張感の緩和が必要

対応策

・ファシリテートする上での留意事項を事前に共有
・演習で想定される参加者からの疑問への対応案などをまとめ、**ファシリテーター用手持ち資料**として提供

ファシリテーター用手持ち資料案を本委員会で検討

配慮が必要なこと

担当するグループの参加者について

どんな人が参加するかわからないと不安

対応策

・当日担当するグループの参加者の情報（障害領域、ピアサポーターとしての経験値、研修への付き添いの方の同行有無、受講目的等）を、事前にファシリテーターに共有

演習①ピアサポーターの基礎と専門性

東京都障害者ピアサポート研修　ファシリテーター用手持ち資料（案）

（本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています）

獲得目標	●リカバリーの経験がピアサポーターの専門性の基盤であることを知る。その上で、経験に基づいた「傾聴」「共感」「受容」といった専門性を発揮し、当事者とのより「対等」な関係性を構築することで、ピアサポーターとしての支援の幅と質を高める。

設問

１．経験について、話してみましょう
（例）障害によって感じた困難、その時周りにはどんな風にしてほしかったのか、一歩踏み出すに当たってのきっかけ
２．人生の困難は、病気や障害に関わらず、誰にでもあるものです。障害の有無に関わらず、グループの皆で話し合ってみましょう

回答例

１．精神疾患を患うことなった経緯、どん底だった時の気持ち、リカバリーに踏み出すきっかけとなった周りからの言葉、リカバリーの道のりなど

２．失恋・離職・ペットロスなど

想定される懸念

障害者

1.「今でも思い出すのが辛い経験もあるので、自分の体験談をありのまま語ることには抵抗があります」

専門職

2.「専門職が障害とは関係のない経験を語ることに、意味はあるのですか？」

ファシリテーターとしての対処法

1.「『今でも思い出すのが辛い』ことは秘密にしてください。何でも情報開示することがピアサポーターの役目ではありません。相手の状況によって響く言葉は異なるので、利用者のためになることを、その時々で意図的に経験として伝えることこそが重要です。逆に話を聴く時は、寄り添い受け止める姿勢を意識しましょう」

2.「困難からのリカバリーを語る上では、障害の有無を問いません。この演習では、経験を語り合う・受け入れ合うとの体験をすることで、『自分だけではない』という安心感や『自分も困難から一歩踏み出そう』という希望がもたらされる、という空気感を共有してみましょう」

ファシリテーターのポイント

語る方の勇気と、その人の人生に敬意を持って聴く。評価・批判をせず、受容的な態度で聴く。「当事者に対しては、相手の状況をよく観察して、相手に合うであろうリカバリーの経験の引き出しを使えると良い」ということを伝えていく。